

こんにちは 牛越です

【第152回】
新緑の装い



大町市長 牛越徹

春を告げる桜前線は、例年になく足早に日本列島を北上し、北アルプスの麓大町でも、今年4月早々に開花を迎えました。市内六つの保育園の入園式が、4日、満開の桜の中で一斉に行われ、初々しい新入園児の皆さんは、新しい環境に少し戸惑いながらも、親の手を離れ周囲を珍しげに見回していました。

また、小・中学校では、6日、7日に入学式が開かれ、新入生の皆さんは凛とした表情で式に臨みました。このうち、大町中学校と八坂小中学校では、入学式に先立ち、真新しい校名看板の除幕と開校式が行われました。

大町中学校では、学校再編準備委員会はじめ、旧一中、旧仁中の学校運営協議会や地域の皆さまの臨席の下、中村教育長から開校が宣言され、新校がスタートしました。教育目標を「自立した学び手となる」とし、互いの考えを聴き合う協働の学びを通して、思考力を高める学校づくりを進めることとしています。これまで長きにわたり両校で育まれてきた校風や建学の精神を受け継ぎ、時代にふさわしい新たな伝統を築いていくことを期待しています。

また、八坂小中学校では、教育理念を「広げ、深め、高め合う」とし、対話を基盤として多様性と個性を認め合い、新たな価値を創り続ける力を育む、との学校経営ビジョンが示されています。地域とともに歩むコミュニティ・スクールとして、地域に愛され親しまれることを願っています。

さらに、5日には、山村留学の入園の集いが、八坂・美麻学園のセンターで開かれました。集いでは、新たに入園する12人を含む31人の学園生が、恒例となっているダンコウバイの黄色の花をつけた小枝をささげ持って入場し、保護者や受け入れ農家の皆さんの前で、一人一人が1年間の生活や勉強に取り組む目標を発表しました。山村留学は開園以来48年目を迎え、これまでに延べ1400人もの子童・生徒の皆さんが学んでいます。自然豊かな里山でのさまざまな体験により、心身ともにたくましく成長することを期待します。

木々の芽吹きも進み、野山は新緑の装いとなり、間もなく、新型コロナウイルス感染症の位置付けも変わります。新たな日常を目指して、活発な社会経済活動が再開することを願っています。